

発行所  
 特定医療法人五省会西能病院  
 〒930 富山市五福1130  
 TEL (0764) 41-2481(代)  
 発行人 西能 正一郎

# 五省会ニュース

五省  
 一 至誠に悔むをかりしか  
 一 言行に恥づるをかりしか  
 一 一氣力に悔むをかりしか  
 一 一努力に悔むをかりしか  
 一 不精に悔むをかりしか

## 周辺のオフィスマンの健康管理に

### 「タワークリニック」を開設

九月上旬 インテック明治生命ビルで



(タワークリニックの外観(二階白点線囲み))

厳しい医療界のなかで、特定医療法人、五省会・西能病院は、診療所の開設、骨密度測定装置の導入、体力測定室の新設などをはじめ、組織及び環境の改善、強化をはかっている。そして、人間関係を大切にしたい医療サービスの質と効率の向上、予防医学を含む新しい時代の総合医療施設づくりを目指している。

#### 内科医師が常勤

「タワークリニック」(百八十一平方メートル)を九月上旬に開設をする。同ビル及び周辺のオフィスマンが対象。内科医師一人が常勤。

#### 骨密度測定装置をPR

近く一階、画像センサー前に設置するX線骨密度測定装置は、骨粗鬆症の診断、治療やスポーツ選手の骨量測定に威力を発揮する。高精度、短時間の検査などが特徴である。

#### 改装、移設工事

病院内の十七項目の改装及び移設工事を七月十八日からはじめた。主なものは次のとおり。

#### 地域に根ざした紙面づくりを

五省会ニュースは、八十三号まで回を重ねてきました。これは、病院内外からのご厚情、ご指導に支えられてきた。

#### 新人の抱負

焦らず、奮らず  
 人の心が見えない時は自分の心を見つめ直す。焦らず奮らずの看護をしていきたいです。(看護部 吉崎寿美)

## 病院給食費の有料化

西能 正一郎

## 政府が医療費の穴埋めに

それでも最初に目論まれていた、一日あたり八百円という金額が六百円でスタート、二年後には八百円にするという落ちがつかないが、その金額の多寡にかかわらず、入院していただく医療機関でお金を頂戴することには変わりありません。私共のように病める人をおおあがりしている立場で申しますならば、皆様はお金を病院に納めるのだから食事がごちそうになるのはあたりまえと、お思

その一つとして、地域に密着したものを、どしどし取り上げていきます。西能理事長、西能院長は「地域になくはない、あつてはならない、あつてよかった病院」を打ち出しています。

一日も早く一人前に  
 まだ右も左もわかりませんが、一日も早く一人前の放射線技師になりたいです。(レントゲン室 岡田 理)

さらに根気よく  
 患者さんの名前と、顔が少しづつ一致してきた今日この頃、さらに根気よく努力します。(検査室 山下久代)

大蔵省から厚生省に配分されるお金は、それほど少ない額ではないのでありますが、そのうちの半分は年金に分けねばならず、昨今は福祉へ流出するお金も次第に増額致しますので、医療の分野に充てられるお金は、どうしても手詰りになり勝ちであります。国民の健康を受け持つ費用を節約するとは言い出せないものの、日進月歩の医療の進歩に追いついてゆけない、医療保険経済の破綻が見えて来るというのが昨今の厚生官僚の大きな悩みであります。

この問題を解決するには、受益者負担を増やす、お金を払えない人には福祉財源で手当てをするというやり方が最もわかりやすい処理の方法であると思われるのでありますが、

行政官は、何故かこの途を選ぼうとしません。そこで今までは医療機関で使用するお薬の公定価格を引き下げたり、医療保険点数の引き上げを圧縮したりして凌いで来ました。が今や公的病院は勿論のこと、私的病院でもその半分は赤字経営という状況に追い込まれて、国民医療の崩壊が懸念されるようになりました。

以前から時々噂されておりました、入院食事が有料化がよいよ現実のものになったので

わせないじゃないかと言われるのは火を見るより明らかです。

大事なことは、これは病院が戴くのではなく、政府が医療費の穴埋めに徴収するものであることを御存知いただきたいと、お願い申します。そして、この機会に、より良い食事をさし上げる努力を致します。

ありませぬ。以前からこの話が出る度に、病院団体は、病院給食は医療の一環である、と猛反対をして、なんとか今日まで来ました。新政府になってから、医療の事を御存知ない議員諸公に「何処に居ても(病院に居なくても)食事はするし食事代はかかるのだから」と納得させて、入院患者さんから夫々の医療機関で食事代の一部を負担していただくという法案を一気に可決してしまいました。

三階の談話室、喫煙室(五十三平方メートル)を体力測定室に改装する工事が七月中旬からはじまった。完成は九月中旬の予定

人間ドック、スポーツ外来をはじめ、学校のスポーツクラブ、外来患者さん(希望者)らに、予防医学の立場

各二室を八つの二人部屋に△一階△整形外科

力計(筋力)⑤デジタル背筋力計(筋力)⑥垂直とび測定器(瞬発力)⑦全身反応測定器(敏捷性)⑧閉眼片足立ち測定器(平衡性)⑨デジタル前屈計(柔軟性)⑩最大酸素摂取量測定器(心肺持久性)⑪上体おこし測定器(筋持久力)⑫トレッドミル(歩行訓練トレーニング)

呼び出しベルが鳴りパソコンのテレビ画面に測定装置を腹部に付けて下さい」との文字が出てくる。病院からだ。この装置が記録した妊婦の腹筋の状態や胎児の心拍数などのデータは自宅から病院へ電送される。それをみての医師の指示、異常な場合の治療法などが、今度は逆に病院から家庭へ送られる。この妊婦の母子手帳に光カードを組み込んでおけば、その他の病院や科ともデータ交換ができる。通院の手間が省ける情報ネットワーク。いわゆるマルチメディアだ。厚生省は2010年までに全家庭に医療機関を光ファイバーで結ぶ構想を発表した。自宅の患者と医師の間でお互いに会話でき、図も写真も出る双方向テレビ。まさにパラ色の二十一世紀医療だ。しかし果たしてパラ色ばかりだろうか。個人プライバシーがすべてつつ抜けになる点を指摘する人もいます。高齢者時代に対応するメディア「ケア」というのが、高齢者が本当にたやすく端末機器取り付け費用の負担、機器の操作に耐えられるのだろうか。それ以上にもっと心配なことがある。今でさえ疎遠になりつつある患者と医師の触れ合い、心のコミュニケーションの問題だ。無論、新鋭機器は欠かせないがモノには限界がある。それを乗り越えるのは人間であり、ココロだろう。医療だけでなく今のマルチメディア計画に人間が欠落しているのを恐れる。

## あすなろ

呼び出しベルが鳴りパソコンのテレビ画面に測定装置を腹部に付けて下さい」との文字が出てくる。病院からだ。この装置が記録した妊婦の腹筋の状態や胎児の心拍数などのデータは自宅から病院へ電送される。それをみての医師の指示、異常な場合の治療法などが、今度は逆に病院から家庭へ送られる。この妊婦の母子手帳に光カードを組み込んでおけば、その他の病院や科ともデータ交換ができる。通院の手間が省ける情報ネットワーク。いわゆるマルチメディアだ。厚生省は2010年までに全家庭に医療機関を光ファイバーで結ぶ構想を発表した。自宅の患者と医師の間でお互いに会話でき、図も写真も出る双方向テレビ。まさにパラ色の二十一世紀医療だ。しかし果たしてパラ色ばかりだろうか。個人プライバシーがすべてつつ抜けになる点を指摘する人もいます。高齢者時代に対応するメディア「ケア」というのが、高齢者が本当にたやすく端末機器取り付け費用の負担、機器の操作に耐えられるのだろうか。それ以上にもっと心配なことがある。今でさえ疎遠になりつつある患者と医師の触れ合い、心のコミュニケーションの問題だ。無論、新鋭機器は欠かせないがモノには限界がある。それを乗り越えるのは人間であり、ココロだろう。医療だけでなく今のマルチメディア計画に人間が欠落しているのを恐れる。

### 初めての新人も「ホッとした」 五階ホールで集団検診

#### 北陸総合警備保障の五十人

北陸総合警備保障五十人の職員五十人(うち女性五人)が六月、二回にわたり、西能病院で集団検診を受けた。まず、健康調査票に記入し、最新の体の調子、生活習慣などを記入したあと、一階で胸

圧を、二階で視力、採血、聴力を、そして最後に内科診察を受けた。五階日本館で小憩の間に、「血圧が少し高かった」「眼の調子が悪

かった」などと話し合っていた。また今年入社して初めての検診は、引かれた男性(一九)は、「なんともなく、ホッとしました」と話していた。

人間ドックの説明を受ける姿も担当の健康事業部の仙田副部長から人間ドックの説明を熱心にかけている姿も見られた。また、東急観光高山市支店の十八人が、七月に四回に分けて成人検

診を受けた。同店の要望による特別メニュー(日帰りドック)並に、集団検診を希望する事業所は健康事業部まで申し込んでほしい。

西能 反発するわけですか。大島 そういうことなんです。反発した絵も真実なら、そのまま表現したのも真実です。フランスのすばらしい絵を見て、自分もそういう具合に描きたいなと思った場合、風土というものをぬきに描いて飛び込んでいく、左右さげているのかいれないか、ちよっとわからぬ。西能 私は風土の運いはあると思います。西能 私は風土の運いはあると思います。西能 私は風土の運いはあると思います。西能 私は風土の運いはあると思います。西能 私は風土の運いはあると思います。

西能正一郎対談シリーズ  
**いまを生きている**  
西能 正一郎対談シリーズ  
「宗教以前の、存在そのものから始める」と大島氏  
西能 正一郎対談シリーズ  
「宗教以前の、存在そのものから始める」と大島氏

### 糖尿病 患者を自覚できた 身をもって正しい生活を体験

「糖尿病スクリーン」(糖質耐性試験)を、西能病院は四月から一土曜退院)を開設したが、七月までの七回で十五人が受講した。次は高瀬道啓さん(五八、富山市)の受講感想である。

「私は高血圧症で通院してはじめて五年あまり、途中、糖尿病の疑いありと診断され、食事療法が必要で、アルコル(主にビール)はできる限り控えるよう医師から再三いわれながら、あまり守って

いなかっただ不良患者の典型でした。検査と学習のためはいえ、はじめての入院は、大変なことで、仕事の面からも気持ちの面からも、心のふんざりが必要でした。

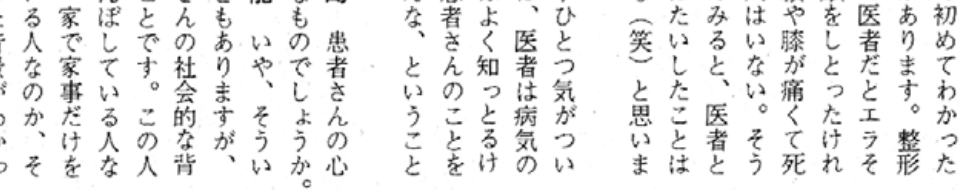
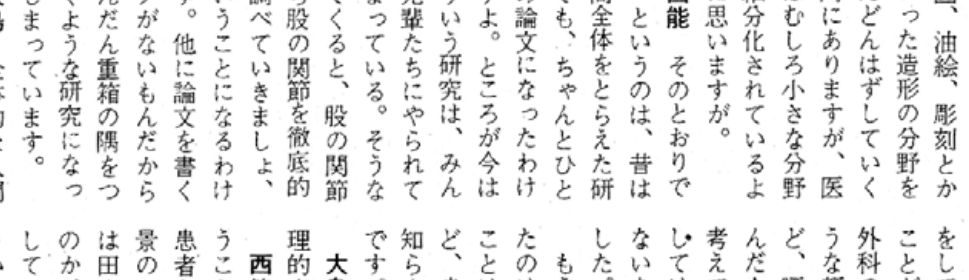
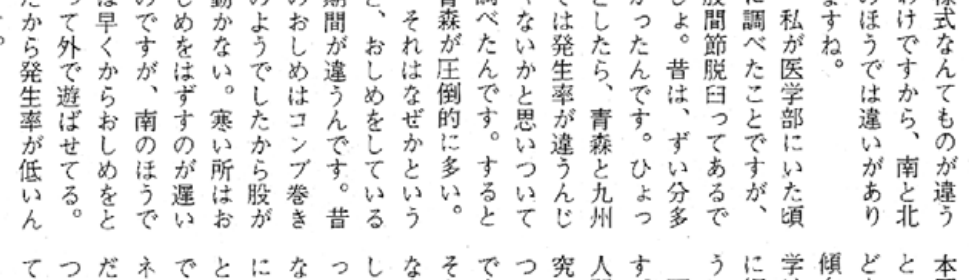
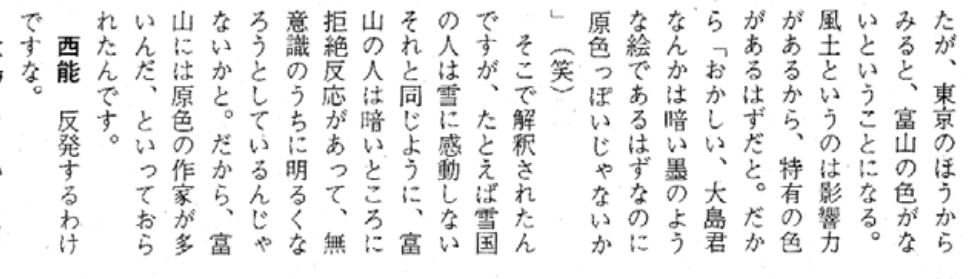
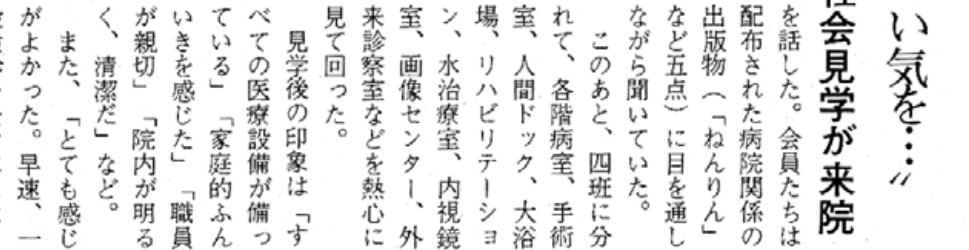
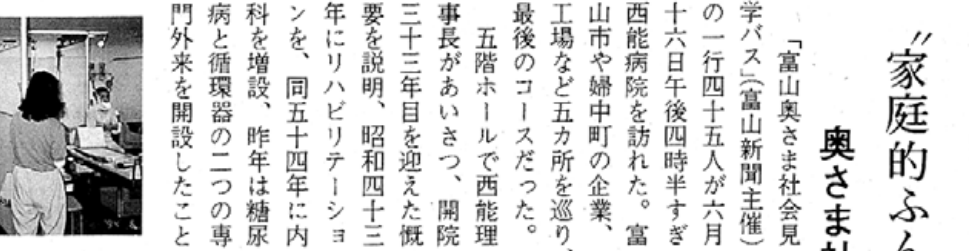
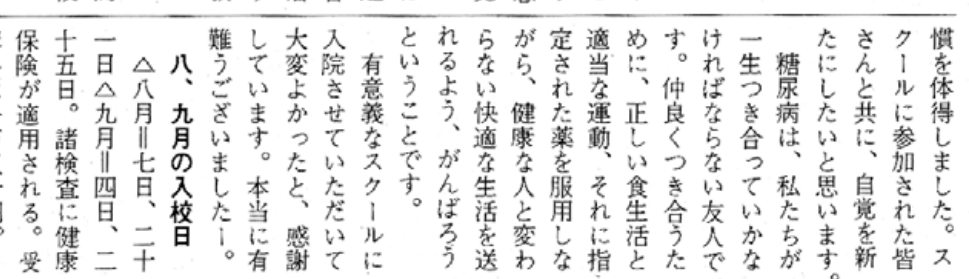
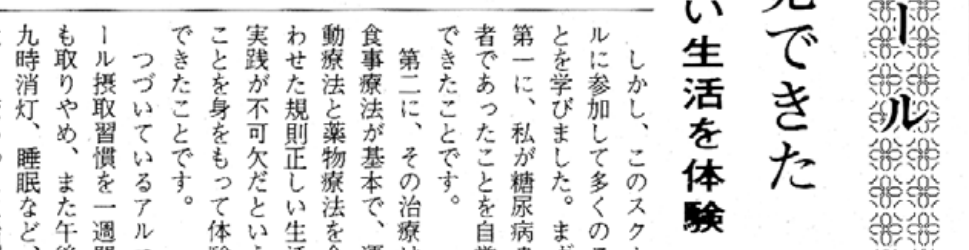
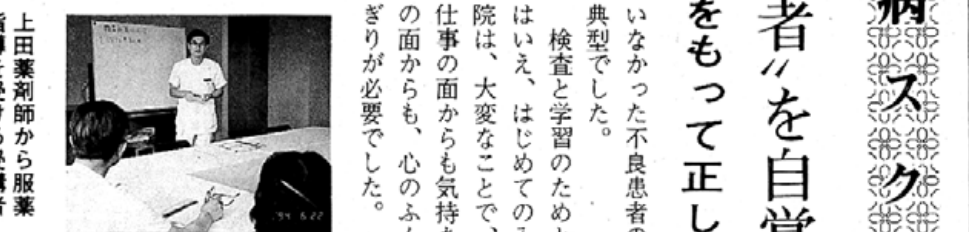
しかし、このスクリーンに参加して多くのことを学びました。まず第一に、私が糖尿病患者であったことを自覚できたことです。第二に、その治療は食事療法が基本で、運動療法と薬物療法を合わせた規則正しい生活実践が不可欠だということも身をもって体験できたことです。

「富山奥さま社会見聞」を話した。会員たちは配布された病院関係の一行四十五人が六月十六日午後四時半過ぎに西能病院で開かれた。富山市で婦中の企業、工場など五カ所を巡り、最後のコースだった。五階ホールで西能理事長があいさつ、開院三十三周年を迎えた概要を説明、昭和四三年にリハビリテーション科を増設、昨年は糖尿病と循環器の二つの専門外来を開設したこと

「家庭のふんい気さ」奥さま社会見聞が来院  
「富山奥さま社会見聞」を話した。会員たちは配布された病院関係の一行四十五人が六月十六日午後四時半過ぎに西能病院で開かれた。富山市で婦中の企業、工場など五カ所を巡り、最後のコースだった。五階ホールで西能理事長があいさつ、開院三十三周年を迎えた概要を説明、昭和四三年にリハビリテーション科を増設、昨年は糖尿病と循環器の二つの専門外来を開設したこと

「存在そのものや自然から精神性をつかみ出す」  
西能 正一郎対談シリーズ  
「存在そのものや自然から精神性をつかみ出す」

西能 正一郎対談シリーズ  
「存在そのものや自然から精神性をつかみ出す」



血圧を測る様子

採血の様子

視力を測る様子

聴力を測る様子

最後に内科診察

### 地域とともに 健康教室

#### 院長が「骨粗しょう症について」

富山五福末広町町内会と町公民館が共催の「健康教室」が六月二十五日午後七時から西能病院五階ホールで町内会のみなさん、職員らと五十人が参加して開か

れ、西能院長が「骨粗しょう症」の予防と治療についてを講演し、健康事業部長が「骨粗しょう症」の予防と治療についてを

講演の内容は、「現在骨粗しょう症の状態でいる人は二十万人以上と考えられています。女性には五十歳以上、男性には六十歳以上が要注意である」と語った。

「骨粗しょう症」とは、骨の量が減少し、骨質が脆くなることで、骨折しやすくなる。予防には、適切な運動、バランスの取れた食事、十分なカルシウムとビタミンDの摂取が効果的であると述べた。

また、「西能病院では、近接高精度の骨密度測定装置を導入し、予防対策を講じている」とも述べた。

「骨粗しょう症」とは、骨の量が減少し、骨質が脆くなることで、骨折しやすくなる。予防には、適切な運動、バランスの取れた食事、十分なカルシウムとビタミンDの摂取が効果的であると述べた。

「骨粗しょう症」とは、骨の量が減少し、骨質が脆くなることで、骨折しやすくなる。予防には、適切な運動、バランスの取れた食事、十分なカルシウムとビタミンDの摂取が効果的であると述べた。

「骨粗しょう症」とは、骨の量が減少し、骨質が脆くなることで、骨折しやすくなる。予防には、適切な運動、バランスの取れた食事、十分なカルシウムとビタミンDの摂取が効果的であると述べた。

「骨粗しょう症」とは、骨の量が減少し、骨質が脆くなることで、骨折しやすくなる。予防には、適切な運動、バランスの取れた食事、十分なカルシウムとビタミンDの摂取が効果的であると述べた。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

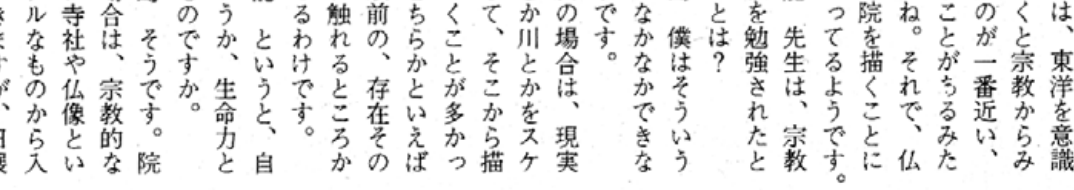
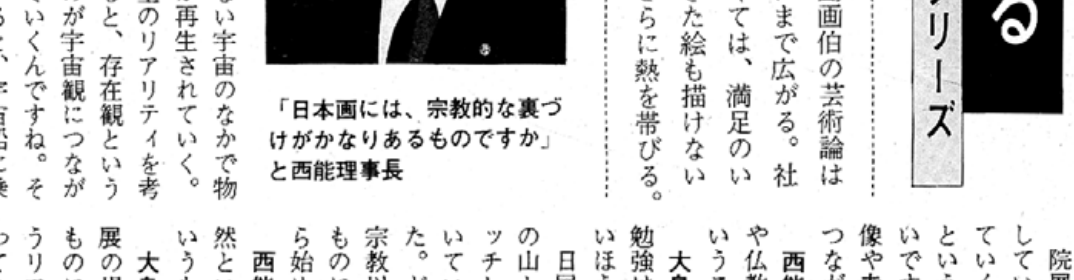
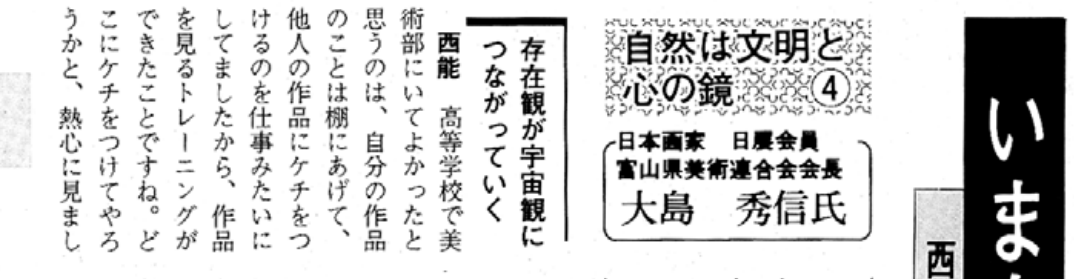
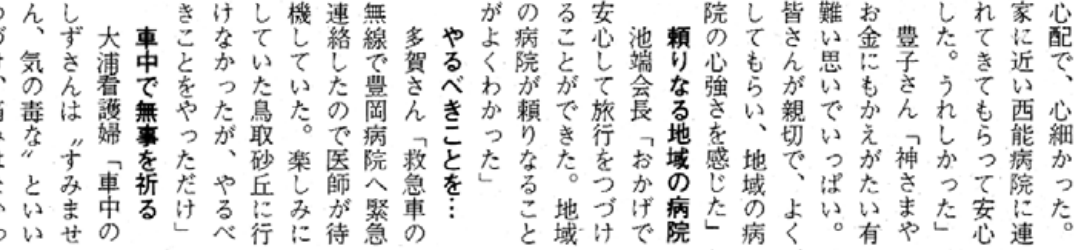
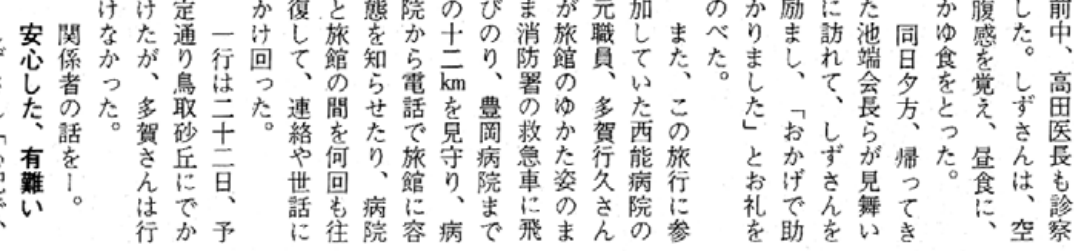
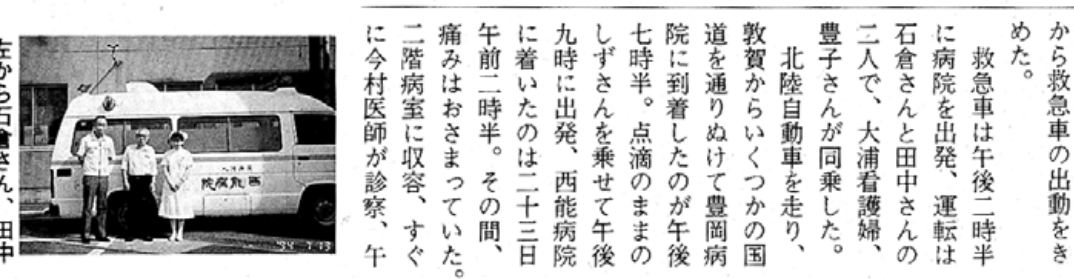
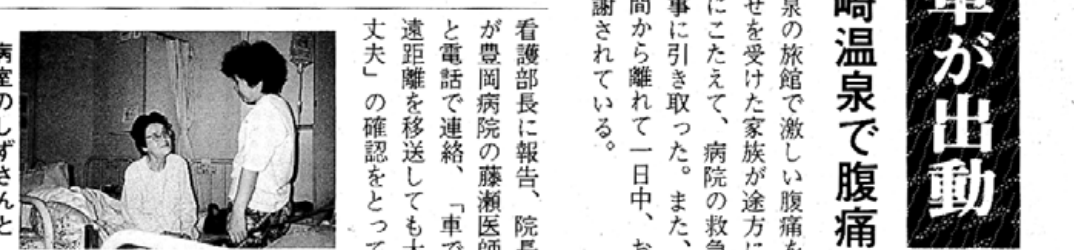
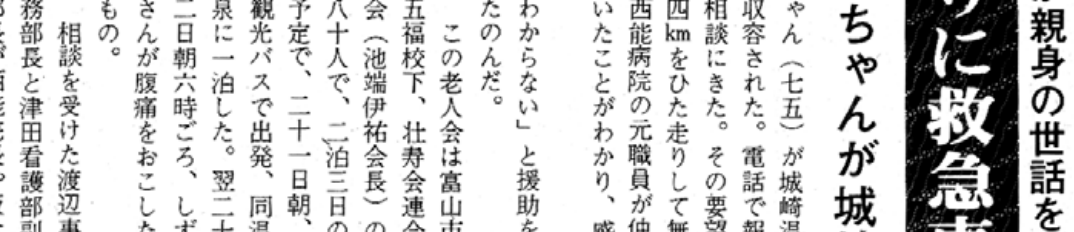
「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。

「おばあちゃんが城崎温泉で腹痛」  
老人会旅行のおばあちゃん(七五)が城崎温泉の旅館で激しい腹痛をおこし、救急車で病院に運ばれた。電話で知らせを受けた家族が急いで近隣の西能病院に相談した。その翌日に連れてきて、病室に移動した。この旅行に参加していた西能病院の元職員が仲間から離れて一日中、おばあちゃんの世話をしていたことがわかり、感謝されている。



血圧測定の様子

説明の様子

説明の様子

説明の様子

説明の様子

説明の様子

説明の様子

説明の様子

# より活性化を

## 第五回院内研究発表会から

「地域活動の充実を図る―基本健康診査受診調査から―」内科外来五人、発表者、関待子

富山市は昭和五十八年から四十歳以上の基本健康診査(以後健診とする)を行っている。当院も、地域活動の一つとして、その一翼をにならうと、健診を実施している。そこで、地域の四校下(五福、神明、桜谷、呉羽)における受診状況を調査



地域活動を話し合う内科外来の看護婦たち(右端は関待子)

したので報告する。その目的は、地域住民の受診状況を知り、地域活動の充実を高めるためである。

平成三年度から、平成五年度までの四校下における対象者数と受診者数(カッコ内)はつぎのとおり。

◇平成三年度九千二百九十三人(四千八百八十八人) ◇平成四年度八千七百八十三人(二千四百五十三人) ◇平成五年度九千二百一十二人(二千五百二十四人) 非受診者数は平成三年度から五千七百七十五人(55.7%)六千三百三十人(72.1%)六千五百九十八人(72.3%)であることがわかった。

### 四十歳からの健康診査を

西能病院は「四十歳からの健康診査」(富山市)を実施しています。期間は平成六年五月一日から平成七年二月二十八日まで。(受診時間は午前九時～正午)内容は、一般診査が血圧測定、尿検査、血液検査、内科診察などで、なるべく空腹時

### 胃・肺・大腸がんの検診も

同期間に「胃がん」(朝食ぬき)に受診のこと。無料です。選択検査は、七十歳以上は無料で、七十歳以下は一部は有料です。検査は心電図(五百円)眼底(三百円)血糖(六百円)貧血(無料)受診の際は、富山市民健康センターから郵送の「受診券」を持参

## イベントにも積極的に参加 地域活動の充実を図る 少ない検診の啓蒙活動を

この現状から、いかにして受診行動を喚起していくかが、今後の大きな課題である。そのために、

①地域住民への健康教室の開催と、あわせて健診を実施する。 ②地域住民のイベントに積極的に参加する。 ③こまめにハガキをだして案内するなど。 これらの中で、非受診者へ自己健康管理の必要性を意識づけし、受診行動に移るよう働きかけることができるかと考える。

地域住民の健康管理は「待つ医療」へと変遷している。そのためには何といたっても地域活動の充実がますます重要となってくる。地域住民から頼りにされ、利用されやすい病院であるため、又職場の活性化のためにも努力していきたい。

肺がん・大腸がん検診を実施しています。予約制になっており、これも「受診券」(一部有料)が必要です。 女性のための健康診査 健康診査(三十歳代)も受けつけています。いずれも、病院受付まで申し込んでください。

のためにも日頃から地域住民と交流を深め、地域に根ざした病院として根気よく受診の啓蒙活動を行い、非受診者の掘り起こしを図る必要性を痛感した。

### 病院だより

富山市蛇町、村山二郎さん(六五)が、自然を大切にしようの願いを込めて作った「山を越えてきたのさ」を本紙に寄せた。村山さんは右片麻痺で右足が不自由になり、昭和五十八年から当院に通院している。

山を越えてきたのさ

山を越えてきたのさ、グミの影からふりかえる山の美しさ、こんな素晴らしい山があったのか、残しておきたい、いつまでも山を越えてきたのさ、呉羽の山で雉子の鳴く声ききながら見渡す夕日のアルプスも自然の成せる美しさ

山を越えてきたのさ、神通のほとり、昔な人に会えたのも過去の苦勞を心に秘めて明日は新しい人生さ

六月

二十三日職員四十一人が、病院玄関前の愛の献血車(県赤十字血液センター)で献血。

看護職員に……坂倉看護部長が講演 九日坂倉看護部長が魚津市和光苑(主催魚津市医師会)で「最近の看護職員に期待されること」を講演。

十六日西能理事長が福野町文化センターで「いまを生きる」を講演。主催は福野町社会福祉協議会。

三十日三十一日富山市五福児童クラブの岐阜県宮川村キャンプに救護班。

七月

二日西能院長が県

## 診療体制のご案内

<p>休日診療 (日曜日・祝日)</p> <p>午前8時30分～午後5時</p> <p>整形外科</p> <p>内科</p> <p>リハビリテーション科</p>				<p>平日診療 (月曜日～土曜日)</p> <p>整形外科</p> <p>内科</p> <p>リハビリテーション科</p> <p>スポーツ外来</p> <p>糖尿病外来</p> <p>循環器外来</p> <p>人間ドック</p> <p>泌尿器科外来</p> <p>神経内科外来</p> <p>在宅看護・診療</p> <p>栄養指導</p>			
<p>通院バスのご案内</p> <p>月曜～土曜 午前運行 (日曜、祝日は休み) ○印は常時停留所、その他、臨時停車します。</p> <p>①富山駅・西町コース 富山駅→西町→富山駅前→富山駅前→富山駅前→富山駅前</p> <p>②中・長次・金屋方面 中→長次→金屋→中→長次→金屋</p> <p>③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面 中老田→北代→田刈屋→中老田→北代→田刈屋</p>				<p>日帰りコース・1泊2日コース (水・金曜日) (火・木・金曜日)</p> <p>2泊3日コース・3泊4日コース (申込先)</p> <p>健康事業部 8:30～17:00</p>			